



厚別区版

「もつと元気な厚別区、活力ある北海道を」と、積極的に道政上の課題と向き合っているのが花崎勝道議です。人に対する優しさや思いやりの心を忘れず、地域と道政の懸け橋として奔走する姿が、共感を呼んでいます。「地域の声を大切にして、精力的に行動します」と花崎道議は意欲的です。

北海道議会議員 見て 聴いて 走って 応える

はなさき勝さん

花崎 勝 道議のプロフィール

- ◆昭和28年8月9日生まれ
- ◆札幌市豊平区美園小学校、陵陽中学校を経て、昭和47年3月、北海高校卒業後、株式会社ワコール入社
- ◆平成21年から衆議院議員町村信孝氏の組織局長として活躍
- ◆現在
道議会関係 経済常任委員会委員、新幹線・総合交通体系対策特別委員会委員
自民党道連関係 副幹事長、自民党北海道第5選挙区選挙対策委員長

はなさき勝事務所

〒004-0053

札幌市厚別区厚別中央3条5丁目8-20
電話011(890)7055 Fax 011(890)7066

厚別区の皆さまと共に歩み、心ぶれあう温もりのある道政を築いていくため、全力を尽くします。
今後とも変わらぬご指導、ご叱責をお願い致します。

北海道議会議員 花崎 勝

福祉問題は私のテーマの一つです。みんなが支え合うことのできる社会を構築し、安心して住み続けられる地域を実現するために、これからも道政上の課題をどしどしごり下げていきます。

厚別区の皆さまと共に歩み、心ぶれあう温もりのある道政を築いていくため、全力を尽くします。

昨年の3・11東日本大震災から1年が経ちました。第1回定例道議会で高橋はるみ知事は、震災が起きの受け入れを表明しましたが、被災地の痛みを共有し、できる限りの支援、協力をすることが、私たちの務めだと思っています。

第1回定例会で、私は一般質問に立ち、障害者の災害対策を取り上げました。あの大震災のような非常時に備え、さまざまな障害特性に配慮した支援体制の整備は欠かせないと考えたからです。

福祉問題は私のテーマの一つです。みんなが支え合うことのできる社会を構築し、安心して住み続けられる地域を実現するために、これからも道政上の課題をどしどしごり下げていきます。

温もりのある道政に

花崎道議らが 雪害現地調査

大雪災害



▲雪害被害地の現場を視察

調査団は石狩管内新篠津村で水稻育苗施設や花き育成施設を視察し、大雪でつぶされ、パイプが折れ曲がったビニールハウスなどを目の当たりにしました。また、岩見沢市では「農家やJAだけでは対応できない」など現地の農家の悲痛な声を聞きました。

花崎道議は「現地の痛みをしつかり受け止め、道や国へ支援を要請するなど最大限の努力をしたい」と話していました。

自民党道連は3月14日、合同で雪害現地調査を行い、今冬の記録的な大雪で大きな打撃を受けた空知管内と石狩管内の被害地を視察しました。

道のまとめでは、同8日現在、全道

85市町村でビニールハウスなどの農業施設5830棟が破損し、被害総額

は19億3400万円に上っています。

現地調査には花崎勝道議をはじめ、関係管内選出の道議17人が参加しました。

自民党議員会が 道に政策提言

十分ではない特別支援教育



▲北海道経済・財政立て直し戦力会議の勉強会

このため、知事を支える道政与党として現状の打開を図るために、自民党議員会・道連に設置された北海道経済・財政立て直し戦略会議で新たな提言をまとめました。歳入対策、歳出対策、組織体制の3部門からなり、改革が必要なもの、新たな視点で対策が考えられるものなどを中心に17項目を挙げています。メンバーの一員として積極的に意見を出した花崎道議は、「道財政の立て直しはまつたなし。少しでも施策を前倒して取り組んでほしい」と話しています。

北海道、厚別区の未来のため前進します

第1回定例道議会

花崎道議が福祉などで一般質問

新年度予算案、HACなどを審議

平成24年第1回定例道議会は2月23日招集され、3月23日まで30日間の日程で、総額2兆7410億円の新年度一般会計予算案などを審議したほか、HAC(北海道工アシスティム)問題や震災がれきの受け入れなどで質疑を交わしました。

花崎勝道議は3月6日の本会議で一般質問を行い、①地球温暖化防止対策について②第3期北海道障がい福祉計画について③特別支援教育についてーを取り上げ、知事、教育長らの見解を求めました。

◆花崎勝道議の一般質問項目

I 地球温暖化防止対策について

- (1)道有林を活用したカーボン・オフセットの取り組みについて
- (2)カーボン・オフセット活用型森林づくり制度について
- (3)今後の本道における地球温暖化防止対策について

II 第3期北海道障がい福祉計画について

- (1)第2期計画の評価について
- (2)第3期計画策定の基本的な考え方について
- (3)相談支援体制の充実について
- (4)就労支援の取り組みについて
- (5)障がい者の災害対策について

III 特別支援教育について

- (1)特別支援学校高等部の配置計画について
- (2)小・中学校における校内体制について
- (3)小・中学校における校内体制について
- (4)免許状の取得について
- (5)教育上特別な支援を必要とする生徒の状況調査について
- (6)高等学校における特別支援教育について

I—(3) 議定書離脱後の取り組みは

野呂田水産林務部長 環境省が創設したJ-VER(カーボン・オフセット)制度の対象とされている間伐が行われた人工林で、森林吸収のクレジットを取得し、先行して取り組んでいる市町村などと連携して、新年度には道内外の企業に販売活動を実施する。都市と山村の交流、地域の活性化にもつながると期待され、取り組みが全道に広がるように努める。



III—(3) 十分ではない特別支援教育

花崎道議 小・中学校の特別支援教育は、校内委員会の設置やコーディネーターの指名など、校内体制の整備は進んでいるが、十分に機能していない学校もあると聞く。特別支援



III—(5) 本道も発達障害生徒の調査を

花崎道議 文部科学省では発達障害の抽出調査を実施している。本道も悉皆しつかい調査を行い、今後の施策に活用すべきだ。道教委は道立高校に在籍する発達障害のある生徒の状況を調査しているが、この結果を知事部局に提供すべきだ。

高橋教育長 文科省の調査結果を踏まえて、必要な対応を検討する。道立校については教育上特別な支援を必要とする生徒の状況を調査し、年度内に結果をまとめる。調査結果などを踏まえ、支援員の配置数の拡大の必要性などを検討する。調査結果は道の関係部局に提供し、連携して、障害のある児童生徒の支援充実に生かしていく。

組みを進めることになった。その中で、道はどのような対策を進めていくのか。

高橋知事 今後、国の温暖化対策や道の新たな「省エネ・新エネ促進行動計画」の目標値の設定状況などを踏まえ、速やかに温室効果ガスの削減目標などの見直しを行う。バイオ燃料の地産地消など再生可能エネルギーの導入促進や、カーボン・オフセットの取り組みなど、本道の特徴や強みを活かした対策に積極的に取り組む。

花崎道議 東日本大震災で、障害者に対するさまざまな課題が浮き彫りになった。第3期北海道障がい福祉計画では、障害特性に配慮した支援体制を整備するためどのように取り組みを推進するのか。

白川保健福祉部長 道では昨年8月に「災害時要援護者支援対策の手引き」を作成した。今後は国の補助金を活用し、障害児施設などに被災者が孤立死するという、痛ましい事件が発生した。障害者の孤立化を防ぐ体制づくりは喫緊の課題だ。障害者は自立支援法改正により、本年4月から市町村で新たに基幹相談支援センターを設置できるようになり、すべての市町村に設置を図る必要があると考えるが、どのように取り組むのか。



II—(5) 障害者の災害支援対策整備を

花崎道議 東日本大震災で、障害者に対するさまざまな課題が浮き彫りになった。第3期北海道障がい福祉計画では、障害特性を把握し、障害の支援体制を整備するためどのように取り組む。

高橋教育長 ご指摘の趣旨を踏まえ、各学校の校内体制の状況などを把握し、相談対応や特別支援学校教員の派遣による助言を行うことで充実を図りたい。支援要員については必要な学校に配置されるよう、市町村教育委員会に働きかけるとともに、国へ財政措置の充実を強く要望する。



▲独立法人理化学研究所(兵庫県)のスーパーコンピュータ「京」を視察